URL http://www.label-tokyo.com/　　email　tlpa_1966@ka2.so-net.ne.jp

暑中お見舞い申し上げます

ラベルニュース

NO443

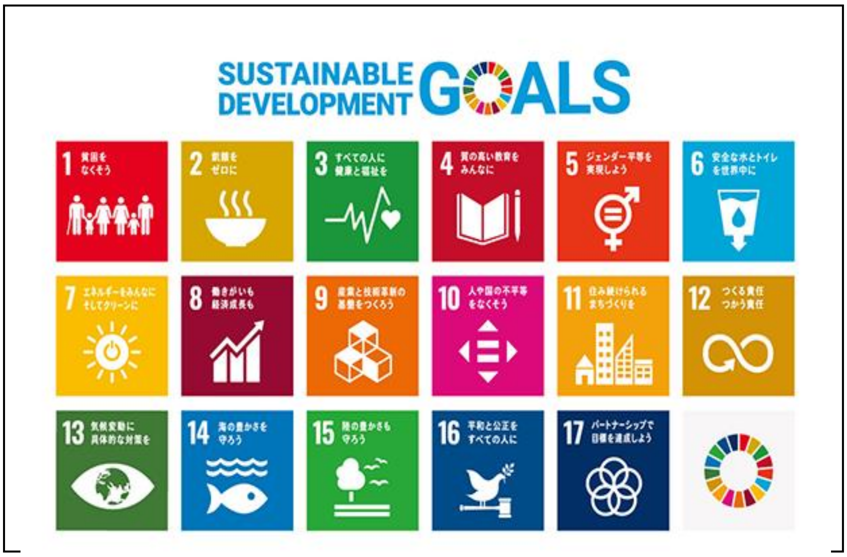
令和4年8月号

東京都ラベル印刷協同組合　　編集:広報・情報システム委員会

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-16-4　TEL(3866)4561　FAX(5821)6443

SDGs導入企業を積極的に支援

日印産連　ポータルサイトを開設
8月から順次講習会も開催へ



日本印刷産業連合会（北島義斉会長）は、先に開催された定期総会に於いてSDGsを活動の柱に位置づけ、委員会・部会活動を再編」し、推進プロジェクトを新設して、会員十団体の会員企業にSDGsの一層の理解・浸透を図ることとなりました。

ここ最近テレビ、ラジオなどのメディアで盛んに「SDGs」という文字を見かけるようになりましたが、まだまだ一般の認知度は低く、印刷業界もご多分に漏れず認知度は低いと言わざるを得ません。

当組合でも「SDGsという言葉は聞いたことはあるが、具体的には分からない」という方が多く、昨年十月にもセミナーを開催しました。

このため日印産連では会員企業にさらなる理解と浸透を図るために積極的に導入支援をすることとなり、六月からは日印産連のホームページにSDGsポータルサイトを開設しました。

「印刷産業とSDGs」というタブを設けて、SDGsを導入するための各種サポートツールと資料の提供、SDGs取り組み事例の紹介、Youtube解説動画の配信などを行っています。さらに印刷会社として取り組める事項や事例を分かり易くまとめた「SDGsターゲットマッピングリスト」も掲載しています。

また、e-learning機能付きのアンケート調査の実施や、八月、九月、十月にSDGs講習会も企画されているが、アンケート調査は会員企業のSDGsへの理解度と取組の実態を把握するとともに、提供するツールや講習会の内容への反映、日印産連の今後の施策検討に生かすことを目的に実施される。

これはgoogleフォームを利用して作られているため、回答するにあたってはSDGsポータルサイトに掲載されている解説動画やPDF資料などをみたうえで回答するので、アンケートを回答しながらSDGsの基礎的な学習ができるようになっている。

日印産連が重要視する四つのマテリアリティとは

1・生産性向上を目的としたDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

2・地方創生に関わる事業推進

3・地球環境への配慮

4・女性活躍推進をはじめとするダイバーシティ経営、人権及び多様性の尊重

■SDGsとは

サスティナブル・ディベロップメント・ゴールズの略で、「持続可能な開発目標」と訳される。二〇三〇年までのグローバルな課題の解決に向け、世界の全ての人が協力しようという十七の目標（ゴール）を指す言葉で、二〇一五年九月の国連サミットで、加盟一

九三か国の全会一致によって決まったものです。

■十七の目標

①貧困をなくそう
②飢餓をゼロに
③すべての人に健康と福祉を
④質の高い教育をみんなに
⑤ジェンダー平等を実現しよう
⑥安全な水をトイレを世界中に
⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに
⑧働きがいも経済成長も
⑨産業と技術革新の基盤を作ろう
⑩人や国の不平等をなくそう
11棲み続けられる街づくりを
⑫つくる責任　つかう責任
⑬気候変動に具体的な対策を
⑭海の豊かさを守ろう
⑮陸の豊かさも守ろう
⑯平和と公正をすべての人に
⑰パートナーシップで目標を達成しよう

　そしてこの十七の目標を、より具体的にしたものが「一六九のターゲット」ということになります。
　ホームページは左記へ。

一般社団法人　日本印刷産業連合会　(jfpi.or.jp)

日印産連新会長に 北島義斉氏を選出

　日本印刷産業連合会は、六月十六日に開催した第三十七回定期総会に於いて新会長に印刷工業会会長の北島義斉氏(大日本印刷代表取締役社長)を選出した。
　今年度の新たな重点施策として①「新たなグランドデザイン」の策定②SDGsの推進③地球環境保全施策の推進④DXの推進⑤「取引適正化」の推進の五点を掲げ、「会員団体と参加企業の連携を深めて感動と夢を与える新しい産業を実現していきたい」と抱負を述べました。

北島義斉氏

日本ウエストが 東京オフィス開設

　日本ウエストはこのほど東京オフィスを開設しました。プラスチック資源循環促進法により、環境取り組みへの気運が高まるなか、同社の関東・中部・関西の五工場を活用したリサイクルの提案や、資源循環社会実現の一翼を担う皆様方とサーキュラーエコノミーの実現を目指し多角的な協創への拠点として最新情報を発信するサテライトオフィスとして開設した。

日本ウエスト東京オフィス
〒一〇八・〇〇七五
東京都港区港南二丁目十六-四 品川グランドセントラルタワー五階
☎〇三-六二六〇-〇一六六
Fax　〇三-六二六〇-〇一六五
最寄り駅：JR山手線「品川駅」港南口から徒歩四分

光英堂シール移転

　(有)光英堂シール印刷(坂内仁英社長)は、左記に移転し、七月四日より業務を開始した。
　住所・〒一一五-〇〇五一　東京都北区浮間四丁目十五番六号
　電話・〇三-五九一六-六八二一
　FAX・〇三-五九一六-六八二二

協賛会に二社加入

　協賛会にこのほどザイコンジャパンとシリウスビジョンの二社が新たに加入しました。

■ザイコンジャパン㈱
代表者・星名勧　デジタル印刷の世界的パイオニア　〒一一三-〇〇三四　東京都文京区湯島三の一の三　MSビル一階　☎〇三-五八〇七-〇二一〇　FAX〇三-五八〇七-〇二一一

■シリウスビジョン㈱
代表者・辻谷潤一　画像検査システムや特殊印刷機の製造販売　〒二二二-〇〇三三　横浜市港北区新横浜二-四-十七　☎〇四五-五九五・九二八八　FAX〇四五-五九五-九二八七

六月度理事会議事録

■日時・六月二十一日(火)
　午後六時半
■会場・組合会議室
■参加者・北島憲高、本間敏道、大澤雅純、保坂知彦、平山愛二郎、川野豊久、清宮和夫、藤井崇徳(オンライン)
■議題
一・年間スケジュールについて(勉強会　支部会　研修旅行)
・インボイス講習会　中央会の持続化支援事業の助成金を使用して開催する。日程は、七月二六日二七日二八日のいずれかで、中央会の講師が決まり次第、上野精養軒に会場手配をすることとなった。
・工賃に関する勉強会　第二弾として工賃に関する勉強会も開催することとなった。
・SDGsセミナーについて　連合会が八月九月十月の三回にわたってセミナーを企画していることが報告された。
・研修旅行について　組合研修旅行を３年ぶりに開催することとなり、ソルテック工業の工場見学という意見が出されたが、福利厚生委員会に一任することとなった。
・忘年会(合同支部会)　忘年会も合同支部会として開催することを前提に、十二月二日を第一候補に検討することで了承された。
・ミニ機材展　ミニ機材展をオンラインで年内に二回程度開催し、来年二月か三月にリアルで開催することで今後検討することとなった。
・年次大会(IGAS大会)　十一月二十五日に東京ビックサイトに於いて、年次大会(IGAS大会)が開催されることになり、四年前の東京大会と同じ形式での開催となることが報告された。

原材料費の値上げについて
・タック紙など原材料の値上げについて　出席者から昨年十二月の値上げがやっとユーザーに認められたばかりなのに、また八月からの値上げは対処できない。今回は一五%の値上げということで、本当に困っているという声が大半を占め、中にはシールも値上げをするいい機会という声もあったが、一年に二回、それも今回は一五%というのでは如何ともしがたいという声が多かった。今回も連合会名で協賛会宛に要望書を提出したが、また各得意先に出す文書のひな型も作ることになったと報告があった。
・協賛会との関係について
　協賛会と組合の関係について協賛金の問題も含めていま一度検討すべきではという意見があり、正札シール組合とも一緒になって今後検討していきたいと報告があり了承された。
・来期役員について
来期役員については時間が無くなったため次回持ち越しとなった。

その他
・森林認証について
　清宮和夫氏から、森林認証についての説明があった。
　組合事務所の二階の事務所の借り手が決まり、NGO団体「Alma」と六月一七日に契約したことが報告された。

終了午後七時四〇分

年次大会IGAS大会
三年ぶりの開催へ

　全日本シール印刷協同組合連合会(田中祐会長)主催の、第六十四回年次大会IGAS大会は、十一月二十五日(金)に、東京ビッグサイトホールAにおいて開催されます。
　当日は式典・表彰式、第三十二回シールラベルコンテストの表彰式と作品展示が予定されています。年次大会の開催は令和元年十月二十五日に「びわこ大会」が開催されて以来三年ぶりの開催となります。

SDGsセミナー
三回にわたって開催

◆SDGsセミナー入門編　八月二十四日(水)
オンライン配信
◆SDGsセミナー応用編　九月二十七日(火)
オンラインリアル併用　リンテック会議室
◆SDGsセミナー実践編　十月二十五日(火)
オンラインリアル併用　リンテック会議室

寄稿「生命の種」第二弾（６）

「肥満は器質的疾患が主な原因」

（有）ＴＯＯＶ　篠田　ちゑ

第二章　あらゆる病気は腸から始まる

　ニワムシクイは孵卵してから二か月で六五〇〇Ｋｍの渡りに出る。旅に出る前体を太らせる。人間なら病的な肥満になるくらい体重を増やす。越冬地に着くころには元の体重に戻る。

　かごの中にいる鳥も体重の増減を示すニワムシクイの体重は、入ってくるカロリーと出るカロリーが同じなら維持されるという単純なものではない。

　ヒトは肥満と過体重の根本原因は「摂取カロリーと消費カロリーの不均衡だ」というのが、化学的に認められた説ということになっているが、ニワムシクイは摂取したカロリー以上の死亡を素早く蓄えることができ、燃焼させるカロリー以上の脂肪を落とす。体重調節に別の要素が関わっている。

　ニワムシクイにカロリーイン、カロリーアウトの法則が当てはまらない。ヒトは原料に成功してもリバウンドしてしまう。何をどうしようと減量できない。

　ヒトは今、ニワムシクイのような「体重増進期」にある。人類全体的に太った原因は食べる量が増えるからでも運動量が減ったからでもないことが明らかになってきた。何故太るのか、ＤＮＡの違いか、新陳代謝が悪いのかも関係なさそうだ。そんな単純なものではないことがやっと理解され始めた。体重はカロリー計算だけで管理できるものではない。

　共生微生物の重要性が明るみに出たのは、不快な病気、過敏性腸症候群がきっかけで、腸の複雑な生態系も抗生物質や病原体が生き裂れ破壊され、元に戻らない位荒れたヒトの腸内ならディスバイオシ（マイクロバイオーターのバランスの乱れが生じる。腸内環境の平和が乱された結果の病気だということがわかった。

　スウェーデンは肥満を深刻な問題としてとらえている国、肥満ランキング九十位で肥満率の低い国にも関わらず胃バイパス手術の実施件数は世界一だ。ラベル表示にあるカロリー量は炭水化物一ｇ四ｋｃａｌ、脂肪一ｇ九ｋｃａｌ、誰が食べても同じカロリーを前提としているが、例えばヨーグルトは一三七ｋｃａｌ、太った人は一四〇ｋｃａｌとわずかだが、積もり積もって大きな差になる。

　摂取カロリーはどれだけ食べるかよりも腸がどれだけ吸収するかで決まる。その吸収量は手伝ってくれる微生物がどれだけいるかに左右される。消費カロリーも運動で使うエネルギーだけで決まるのではなく、備蓄しておくか、すぐ燃やすか抱えている微生物集団次第だ。

　レプチンは食欲を抑えるホルモンだが、太っている人はレプチンを出しすぎて脳が検知せず（レプチン耐性）食欲の調整とエネルギー貯蔵のメカニズムが正常に働かなくなってしまうのだ。「ニワクイムシ」は、食物の摂取カロリーを均等させれば体重を維持できるという基本前提を土台から覆す、前提が誤っていれば肥満は暴飲暴食という怠惰からくる生活習慣病ではなく、本人にはコントロール不能な器質的疾患ということになる。肥満は生活習慣病というより、エネルギー貯蔵システムの機能障害といった方がよさそうだ。

　胃バイパス手術をした人は、食べる量が制限されたというより、食べる量が減って腸内マイクロバイオータが痩せ型にリセットされてエネルギーの貯蔵方法が変わったからだろう。ウィルスと細菌を含めた微生物は過食と運動不足だけで肥満になるわけではないことを教えてくれている。食事からエネルギーをどう引き出すか、そのエネルギーをどう使って貯蔵するかは各人が抱える腸内の微生物集団と複雑に関係している。

No188 健康がいちばん!

効果あるのかサプリメント
場合によっては副作用も

■サプリメントとは

最近やたらとテレビなどでサプリメントの広告が目立っていますが、果たしてサプリメントには効果があるのでしょうか。

サプリメントとは、健康食品に分類される食品で、健康食品もサプリメントも法律上の定義はなく、健康の維持増進のために利用されています。

サプリメントはビタミンやミネラルなど健康の維持増進に役立つ特定の成分を濃縮し錠剤やカプセル状にしたものです。

サプリメントは各社メーカーからいろいろな種類が数多く販売されていますがサプリメントは役割や目的によって大きく３種類に分類されます。

■サプリメントの種類

・ベースサプリメントは、体に必要なビタミンやミネラル、アミノ酸、食物繊維、ＤＨＡやＥＰＡなどを補います。ビタミンはビタミンB1やビタミンB2、ミネラルは鉄や亜鉛など単体で販売されるものや、ビタミンを全て含んでいるマルチビタミンという形で販売されることもあります。

・ヘルスサプリメントは、健康維持や美容などのために利用するイソフラボン、ローヤルゼリー、プロポリス、セサミン、カテキンなどがあります。

・オプショナルサプリメントは、ウコン、マカ、ブルーベリー、グルコサミンなどは体調の回復のために利用されます。

■サプリメントの利用目的とは

サプリメントの利用目的は健康の維持・増進や病気の予防、食事で不足している栄養素の補給や強化、疲労回復、美容やダイエットなど性別や年齢により目的は様々です。さらに約５％は医薬品ではないですが、病気の治療目的に使用しています。

■サプリメントの利用状況

サプリメントの利用状況は年々増加し、最近では約３割の人が毎日サプリメントを利用している状況です。また以前サプリメントを利用したことがある方は約８割もいます。さらに大人だけでなく、子供用のサプリメントもあり、身体の成長や脳の発達のために、約８～１０％程度の親が子どもにサプリメントを与えています。

■正しい利用法とは

サプリメントの情報はTVや雑誌、インターネットなどで情報が氾濫しています。まずは購入する前に、ご自分に本当にサプリメントが必要か考えてみます。

サプリメントの利用の前に、まずは毎日の食事から野菜、果物、乳製品、魚などを食品から取り入れるようにします。そのためには栄養バランスの良い食事を心がけ、食事内容や食生活事態を見直します。

サプリメントを購入する際には成分名、含有量、問い合わせ先を確認します。特に健康面の安全性や有効性を判断するためには含有量が必要です。サプリメントは食品に分類されていますが、ビタミンやミネラルなど１度に多種類のサプリメントを摂取すると健康被害の可能性が高くなり、被害の原因究明も難しくなります。何種類か摂取している場合は、同じ成分が重複していることもあり、過剰摂取による体調不良も引き起こします。

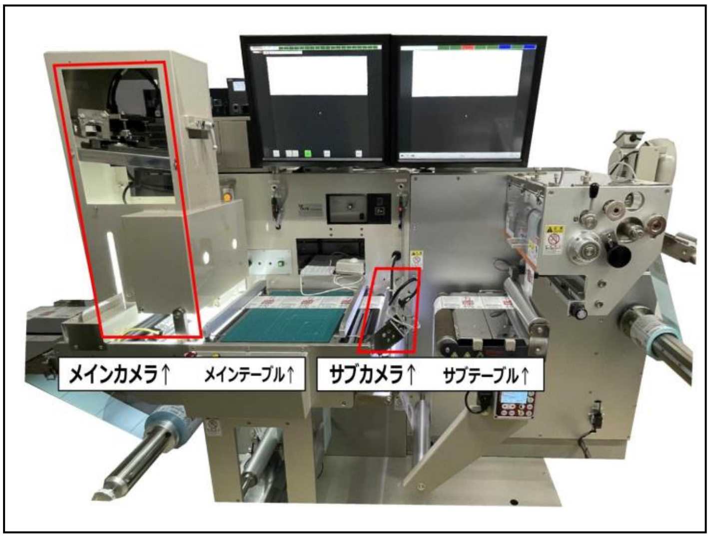
サプリメントは食品ではありますが、薬のような副作用がないわけではありません。サプリメントを利用するときは、どこのメーカーをいつ、どのくらい飲んだかなどをメモし、体調が悪くなったときは、すぐ使用を中止し、医療機関や保健所へ報告しましょう。

【参考資料】
tyojyu.or.jp

なるほど・ざ・新製品

第一九一回「ヤスコーポレーション」

独自技術デュアルカメラ搭載の　自動検査装置の本格販売開始



㈲ヤスコーポレーション（東京都葛飾区堀切、今安卓也社長、℡０３・３６９５・５２４５）はこのほど、独自技術「デュアルカメラ」搭載の自動検査装置に関する本格的な販売を開始した。

　同技術は、検出した不良ラベルの貼替などといった修正後にウェブを巻き戻さず修正箇所を再検査できるもので、特許出願中の段階にある。すでに数台がラベル印刷会社に設置されたほか、問い合わせ件数も増えている。

　デュアルカメラの構造は、１台目の「メインカメラ」がウェブの上流で不良を検出し、メインテーブル上で搬送を停止する。オペレーターが修正作業を行い、ウェブを再搬送させると、２台目の「サブカメラ」でラベルの修正箇所前後から検査を開始する。

　一般的な自動検査装置は１台のカメラでラベルの検査を行う構造であり、検出した不良ラベルの修正箇所の再検査は修正箇所をカメラの位置まで巻き戻して再検査する。そのため、装置自体が大型・複雑化し、またイニシャルコストも高額化を避けられない状況にあった。

　これに対してデュアルカメラは２台のカメラ搭載により、課題を克服。サブカメラで再び修正箇所の不良を検出した場合も、ウェブが自動停止し、「サブテーブル」上で修正できる。

　サブカメラはその目的により汎用タイプから高解像度タイプまで選択可能。

　そのため、２台のカメラ構成であっても設備投資の費用を抑えることができる。

　デュアルカメラの優位性について、今安社長は「修正箇所の保証を求められるケースが多くみられる。そのような要求の多様化の中で、本機構はウェブを巻き戻す必要がないため、小型・低価格のみならず操作性の向上も実現。特にスリッターとの併用により、検査と仕上げがワンパスでこなすことができることから、省人化・省力化に貢献できると考える。また既設の装置に関して、機種によるものの基本的には後付けでのサブカメラ搭載にも対応したい」と説明する。

　更に「ラベル業界では近年、品質要求が厳しくなっており、要望に応えるための検査作業で負担が大きくなっていると聞く。デュアルカメラは、このようなニーズへの対応に効果を発揮する新技術として手応えを感じている。」と話している。